

校長室だより

No. 6

平成 28 年 5 月 13 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

今年の体育祭 学校スローガンはこれ

輝け 六中小魂 届けよう 未来へバトンを

体育委員会の子たちが、上のようなすてきなスローガンを考えてくれました。今年の体育祭は、例年と少し違うところがあります。それは冠に「岡崎市制 100 周年記念」がつくことです。体育委員会がこのことを受け、みんなからスローガンの募集をして、たくさんのアイデアからキーワードとなる言葉を抽出し、多くの子の思いにあう言葉を再構成しました。

本年度の重点目標に「ウ ちゅうぶがだいすきな子を育てる ・本年度行われる市制 100 周年記念行事を核に、岡崎市と中部学区の歴史・伝統・文化を教材化し、学習活動を展開する。」があります。この学びができることをうれしく思いました。

昨年の校長室だよりに書きましたが、体育祭行事でわたしが大切にしたいと考えているのは、「静と動」の動きを学ぶことです。今年は、さらに「市制 100 周年だからこそ生まれるもの」を、子供の思い出に色づけできればと思っています。先生方が今年だからこそその演出をしてくれています。一番の敵は天気。雨に泣かされています。無理をせずできることを精一杯やりたいと思います。

組体操の研修を実施して ー子供の運動能力再考ー

本校では、組体操について、体育の専門で市内小中学校の先生方に授業等をアドバイスする立場の浅井貞人先生（指導員）をお招きし、研修しました。上に乗る子の上り方や足の置き方・降り方、人を持ち上げる子の立ち方や構え方（姿勢）、崩し方など、それぞれの技にあわせた指導の仕方と安全への留意点、コツなどを、実技を通してわかりやすく教えていただきました。



わたしはこうした組体操を考えるとときに、体育専門の先輩に以下のような話をいただいたことをいつも思い出します。

「小さいうちに相撲や柔道のような遊びの経験をしておきたい。体が逆さまになっても自分の体を支え、体のバランスをとる感覚はあとではなかなか身に付かない。」

「補助倒立ができれば、組体操はほぼ完成といえる。ほかの種目のできる力が身に付く。」

小さいうちに経験させておきたい運動経験、自分の体の重心と体の支え方を知る大切な運動種目があると聞きます。しかし、家庭の環境や子供の身体特性など、子供によって事情が違います。思うように経験できるわけではありません。

わたしは、数年前にある地域（岡崎市ではありません）の運動能力を分析しなければいけない時がありました。当時「今の子供は運動能力が落ちている」というようにとらえる風潮がありました。ですが、全国平均もその地域の平均値も、ある年を境に復調しており上昇傾向にあったのでほっとしました。希望が持てる傾向です。種目別に過去と比べると伸び悩んでいた種目はありました。それは投力（ボール投げ）でした。特に女子は伸び悩んでいました。

社会の変化と重ねてみると次のことが想像されました。ベースボール型種目の経験者数の減少と、サッカー等、別種目の運動経験者数の変化（これは総務省統計局に参考になるデータがあります）、そして、幼少期からスポーツを習う習い方の変化、運動経験の少ない子供数の変化と成長の個人差です。スポーツの商業化も進んでいる気がします。これはあくまでもわたしの考察です。地域によって傾向もずいぶん違うと思います。

わたしは、ここ 30 年くらいの中に子供の生活環境の変化と人気となる運動種目の変化、経験種目数の変化、活動時数の二極化が、複合的に進んでいるのではないかと考えるようになりました。だから、子供のもっている運動能力をよくとらえなければならぬと感じます。

わたしたちが集団を相手に授業をするうえで一番苦勞するのは、運動能力の分布に二極化が見られるときです。指導方法の吟味に加え、安全面での配慮も複雑になり、授業づくりが大変難しくなります。集団の二極化を解消するのも学力と同じで一筋縄ではいきません。

しかし、前述の小さい頃に経験させたい運動や感覚のように、大きくなってからはなかなかできないものがあります。やはり、学校体育の役割は大きいと感じます。将来健康で過ごすことができるようにするために、今（小学生）のうちに、必要な運動経験と運動能力の向上を図りたい。体格差と身体特性の違いのある現実と戦いながら。これが担任の先生の一番の苦悩です。

こうした考えの中で、組体操についても、目の前の子供にあうもので、子供に経験させたいもの、そして、達成感があり今年の数でできるものは何かといった観点で、高学年の先生方が一生懸命考えてくれました。

どの学年の体育祭種目も、子供たちの将来のためになり達成感のある種目を考えており、体育祭を楽しみにしたいと思います。